

ドイツ表現主義舞踊家

－ Kurt JOOSSについて －

すずき まりこ
鈴木 万里子

Zusammenfassung

Am Anfang des 20. Jahrhunderts sind viele neue Kunststile entstanden. Auch in der Tanzwelt wurde ein neuer Stil gegründet. Das ist der Ausdruckstanz, der von Rudolf von Laban (1879~1958) erschaffen wurde.

Kurt Jooss (1901~1979), der ein Schüler von Laban war, hat zuerst Ausdruckstanz gelernt und danach mit Sigurd Leeder (1902~1981) klassisches Ballett zu lernen angefangen. 1927 hat Jooss eine Folkwang-Schule und 1928 ein Folkwang-Tanztheater gegründet.

1932 hat er ein Werk namens "der grüne Tisch" geschaffen, welches den ersten Platz in einem choreographischen Wettbewerb der Pariser "Archives Internationales de la Dance" gewonnen hat.

Von der damaligen Zeit an wollte Jooss Ausdruckstanz und Ballett verbinden. Den daraus hervorgegangenen Tanzstil hat er "Tanztheater" genannt.

Vor dem II. Weltkrieg sind Jooss und seine Gruppe nach England ausgewandert.

Nach dem II. Weltkrieg ist Jooss nach Deutschland zurückgekehrt und hat die Folkwang-Schule neugegründet. Pina Bausch (1940~2009) hat in dieser Schule Tanz gelernt.

Jooss' großer Verdienst ist es, den Stil des Tanztheaters entworfen und viele große Tanzschüler ausgebildet zu haben.

Bausch wurde Leiterin des Wuppertaler-Tanztheaters und hat ihre Werke auf der ganzen Welt aufgeführt. Ihre Tätigkeit hat Jooss großen Ruhm gebracht.

Key words : *Kurt JOOSS* *Ausdruckstanz* *Deutscher Tanz*

1. はじめに

20世紀初頭ヨーロッパでは、ドイツを出発点として表現主義が台頭した。また舞踊ではドレスデンを中心として、新たな舞踊形式を持つAusdruckstanz (表現主義舞踊) が誕生した。その誕生時期を特に近代舞踊革命と呼び、Rudolf von Laban (1879～1958) がその創始者である。弟子であったMary Wigman (1886～1973) やKurt Jooss(1901～1979) らの活躍により、その舞踊は、やがてヨーロッパ全土やアメリカを席卷することとなる。

今世紀、Pina Bausch (1940～2009) が亡くなった。この逝去により一世紀の間、受け継がれてきた表現主義舞踊の流れが途切れてしまった。そこで、本稿では、ピナ・バウシュが直接指導を受けたとされるクルト・ヨースの生涯と活動を明らかにする。さらに表現主義舞踊の時代に彼が遺した功績について調べることにした。

2. ドイツ表現主義舞踊

2-1 ドイツ表現主義舞踊

19世紀後半から20世紀初頭にかけてヨーロッパでは多くの芸術運動が起こっていた。その中で、ドイツでは、表現主義運動がドレスデンを中心に始まった。1905年Die Brückeの結成の時期を起点とすることができる。舞踊界では、ラバーンが創始者として1920年代に活動を開始した。彼を第一世代とすると、ヴィグマン、ヨースを第二世代と見ることができる。創始者としてのラバーンの功績は、以下のようにまとめられる。

- 1) 表現舞踊の方法論の確立
- 2) 舞踊空間の分析
- 3) Labanotation (舞踊記譜法) の考案
- 4) Bewegungsschor (群舞) ¹⁾の確立

ラバーンの活動により、新たな表現をする舞踊が誕生した。それは現在も教育界においては創作舞踊として、また舞台芸術においてもモダンダンスという重要な領域を占めている。

分が取り組んでいく芸術的、教育的課題に対して、彼が将来共に進んでいける良きパートナーであると確信した。そして1924年、ヨースとレーダーは、

第二世代であるヨースの活動時期を、表現主義舞踊家が活動を始めた1920年代からドイツの歴史的事項に従って、1) 1920年代～1933年、2) 1934年～1944年、3) 1945年～1979年と3区分した。なお、彼の活動をまとめるため[TANZGESCHICHTE DES 20. JAHRHUNDERTS IN EINEM BAND] ²⁾を資料とした。また、20世紀に活躍した表現主義舞踊家と、その主な作品を列挙した。表-1

2-2 1) 1920年代～1933年

ヨースは、1901年、シュトゥットガルト近郊のWasseraffingenに生まれ、そこで18歳まで過ごした。

1919年、シュトゥットガルト音楽学校に声楽家となるため入学する。しかし音楽の才能はなく、音楽教育を諦め、実家の農業に従事しようとした1920年に、舞踊の師となるラバーンと出会う。

「第一次世界大戦時、ラバーンは、チューリッヒに移住することとなった。その後、1920年にシュトゥットガルトに戻り、そこでヨースと出会った。ラバーンは、その後、マンハイム、ハンブルグなどの公演を通して、若いヨースの中にMeisterとしての資質を見た。また、1922年から1926年まで、ラバーンは、ハンブルグで働いていた」³⁾とラバーンの項に記載されている。

ヨースは、ラバーンの下で学び、舞踊という今までと違った世界を知ることとなった。その時彼は、「私は、心の奥で深く感動した、そして心を奪われた。私の体は舞踊を創り出す。私という存在が芸術の中で、驚くべき方法で解決されることとなった」⁴⁾とその感動を語っている。

ヨースは、当初生徒としてラバーンに学んだ。その後は "Tanzbühne Laban" (ラバーン舞踊舞台) のメンバーとして、マンハイム、ハンブルグなど、ドイツ各地を巡業した。

そのハンブルグ公演の際、Sigurd Leeder (1902～1981) と出会ったヨースは、今後共同でダンスプログラムの構想を練り始めた。

1924年、ヨースはミュンスター市立劇場の監督を引き受ける。この時点でラバーンの指導下から離

れることとなる。

その頃、ラバーンのTanzbühne Laban は、ユーゴスラビアでツアーを行うが失敗し、破産する。そこで、ヨースは、ミュンスターにそのダンサーを呼び寄せ、"Neuen Tanzbühne" (新舞踊舞台) という彼のグループを作った。当初のメンバーは、Estein Aino Siimolaを始めとして女性舞踊家4名、男性舞踊家3名と、音楽監督であるFritz A. Cohen と、舞台美術家であるHein Heckroth 達であった。翌年は10名の女性舞踊家、男性6名となった。

「1926年、ヨースとレーダーは、パリ、ウィーンに留学し、クラシックバレエを学んだ」⁸⁾とあり、バレエ技術の習得に励んだようである。1927年、彼は彼の舞踊団と共にエッセンに移転した。その後、彼とレーダーは、Folkwang-Schule (フォルクヴァング学校) の共同設立者となり、ヨースは舞踊部門の指導者となった。

1928年にDas Folkwang-Tanztheater (フォルクヴァングタンツテアター) を設立する。

同年6月22日から28日まで、エッセンで第二回ドイツ舞踊会議が開催された。そこでヨースは、「ヴィグマンの政治的、美学的対抗者としての役割を務めた。また、バレエと今日的な舞踊、現在行われている舞踊とバレエの違いについて講演を行った」⁹⁾とある。その時のヨースのテーマは「Tanztheater und Theatertanz」であった。ヴィグマンは「Der neue Künstlerische Tanz und das Theater」を発表した¹⁰⁾とある。ヨースのいう今日的な舞踊は、ヴィグマン率いるグループを指し、以前からラバーンと創作課程での見解の相違により、確執のあったヴィグマンを公然と非難する内容となった。また、ラバーンが1928年に設立した"Der deutsche Chorsänger - Tänzerbund e.V."に対し、ヴィグマンは、4月に彼に対抗するため、新たな組織"Die deutsche Tanzgemeinschaft e.V."¹¹⁾を設立した。この設立に対する非難も含まれていたと思われる。

当時の表現主義舞踊家達は、クラシックバレエに対峙する位置にいたが、ヨースは、積極的に創作の中にクラシックバレエを取り込もうとしていた。このことは、レーダーと共に1926年クラシックバレ

エの訓練のため留学したことからも明らかである。

この時期、ヨースはオペラや演劇の企画運営にも尽力し、その結果、彼はパイロイトでトスカニーニの指揮による "Tannhäuser" (タンホイザー) の "Bacchanal" (バッカス) の振り付けを行った。

1929年には、"Pavane auf den Tod einer Infantin" (亡き王女のためのパヴァーヌ) を振り付け、称賛を受けた。彼の作品は後に再現され、20世紀前半において、クラシックバレエと対極にある、古典から解放された進歩的な舞踊作品と評価された。

フォルクヴァングタンツテアターは、1930年からエッセン市立オペラのカンパニーとなり、その評判は瞬く間に全ドイツで知られることとなった。

1932年パリで、"Archives Internationales de la Dance" という国際舞踊コンクールが行われ、ヨースは "Der grüne Tisch" (緑のテーブル) を発表した。そこで、Oskar Schlemmer (1888~1943) の"Bauhaus - Ensemble" (バウハウス-アンサンブル) と競った末、緑のテーブルが1位を獲得した。これがヨースの世界的名声の始まりであった。この緑のテーブルは、中世の死の舞踏をモチーフとした、戦争の恐怖を表した作品として、今なお上映され、語られる反戦作品である。

1932年、緑のテーブルの4ヶ月後に"Großstadt" (大都市)、"Ball in Alt-Wien" (古いウィーンでの舞踏会) を発表した。その後、ヨースは、Ballets Jooss (ヨースバレエ団) と名付けたカンパニーを立ち上げた。

1933年、オランダ、ベルギー、フランス、スイス、イギリス各国を回り、ツアーを行った。しかし、その間ドイツでは、大きな政治的変化が現れていた。Adolf Hitler(1889~1945) の台頭である。ヨースはナチの格好の標的となっていた。「ナチの大管区幹部は、ヨースにユダヤ人と半ユダヤ人である同僚の解雇を要請した。特に緑のテーブルの作曲をしたコーエンに対しては強硬であった。新聞記事によると、彼は、ユダヤ教会の舞踊家と非難された」との記載がある。¹²⁾ 9月中旬、ナチの大管区幹部は、ヨースを強制収容所へ連行せよという指示を出した。彼は、その日のうちにグループを率いてオランダへ

逃亡し、逮捕を免れた。

2)1934年～1944年

1934年、ヨースは、イギリスのDartington でヨースバレエ団を再結成した。そして観客の評価は高く、一時的に世界で最も良いクラシックではないダンスと評価されていた。学校も再開し、イギリスで自由に活動を行っていた。

1939年第二次世界大戦の勃発により、イギリスで3年間抑留される。その後、東西ヨーロッパ、スカンジナビア、南北アメリカの国々で、公演を行った。しかし、1942年、バレエ団はニューヨークで解散することとなる。

3) 1945年～1979年

第二次世界大戦後、イギリスが経済的危機に陥った時、彼の学校も経済的危機に陥り、閉鎖される。そこで、財政的危機を脱するため、ラテンアメリカに仕事を見つけ、行くことを決意した。それは1948年チリ国立バレエ団からの招聘であった。¹⁰⁾

その後1949年に彼はドイツに戻り、再び "Die Folkwang-Schule" フォルクヴァング学校を再開し、舞踊部門を創った。「世界の現代舞踊を教える、教師のための研究所を設けた。大多数の舞踊家達は、この新しいTanztheaterに集まってきた。ピナ・パウシュやReinhild Hoffmen(1943～1999)、Susanne Linke (1944～)、Joachim Schlömer (1962～)、Henrietta Horn (1958～)らがここで学んだ」¹¹⁾と記されている。また、フォルクヴァングバレエ団を再設立するが、短期間で解散となる。理由は、「期待していた支援の手が差し伸べられなかった」¹²⁾からである。「1953年に助成金の打ち切りによってバレエ団は解散となるが、学校は存続していく。その後1961年エッセン市から再び助成金を得て、フォルクヴァングバレエ団を設立、フィレンツェ5月祭に出演する」¹³⁾とある。

1949年から1954年の間ヨースは、シュエティングのバロックオペラとザルツブルグの祝祭のために創作をした。また、アンサンブルを復活させ、公演を行っていた。

1954年から1956年の2年間、彼はエッセンでは教師として、またデュッセルドルフのオペラハウスでは監督として尽力していた。新作バレエ"Catulli Carmina" (カルミナ) のための創作も行った。

1968年、彼が67歳の時、フォルクヴァング学校から、強制的に定年退職させられる。ドイツでは教職の道は閉ざされ、彼はスカンジナビアに行くことになる。

1979年、Heilbronn (ハイルブロン) にて自動車事故により78年間の生涯を終える。

3. まとめ

「戦争後から現在において、ヨースの振り付け師としての名声は、永続しなかった」¹⁴⁾とある。実際ヨースは、表現主義舞踊家の中の範疇にしながら、また、緑のテーブルという画期的な作品を発表しながらも彼の名前は、ラバーンやヴィグマンほど世に知られていない。その理由として、小柳学によると、「ヨースは常に自分をバレエ・コレオグラファーと呼ばれることを求めている、モダンダンスとは一線を引いていた」¹⁵⁾ということが挙げられる。また邦正美は「モダンバレエの始まりはヨースバレエ団である。ヨースバレエ団は、チェケッティ流のテクニックとモダンダンスのテクニックを交ぜてつけたが、今日のモダンバレエは更にジャズダンスのテクニックを加えている」¹⁶⁾とあり、表現主義舞踊の範疇に挙げていない。

表現主義舞踊が誕生した当初、舞踊家はバレエからの脱却、すなわち型からの解放と身体の束縛からの解放を出発点とし活動を始めた。そしてその当時、彼らは理念や方法論もなく、独自の表現形式を見だし、創作活動を行っていた。そのため、クラシックバレエとは異なり、舞踊は誰でもできるものという考えから、素人でさえ舞台上立てばそれは芸術であるという、ディレッタンティズム(素人芸)に陥っていた時期でもあった。

ヨースは当初、表現主義舞踊を学んだが、そういった混沌の中での舞踊や、表現舞踊という名の下に美的ではない舞踊に彼は意義を求めなかった。彼が求めた美的、美学的な観点は、常にクラシックバレ

エであった。彼は、1928年エッセンでの会議の際、表現主義者の舞踊形式は古い、もっと美的なものに技術を求めなければならないと主張していた。「多くのオペラ劇場で舞踊家は働き、音楽劇に登用されている。新しい形式のタンツテアターが作られ、発展しなければならない。タンツテアター実現の為にテクニックを教える教育機関が必要である。-中略-クラシックの伝統に基礎を置いて、新しいドイツ舞踊は発展しなければならない。」¹⁷⁾と述べている。その美の象徴は、クラシックバレエのテクニック、技術や型であった。

その結果、ヨースは、舞踊とバレエを融合させたTanztheaterという新しい様式を生むのである。その彼の目標とするTanztheaterを完成形に繋げていく課程が、彼が設立した舞踊学校と同時に設立されたバレエ団であった。バレエ団は、戦後のドイツの財政状態の悪化から解散となるが、この一連の流れが彼が理想とする舞踊体系であったと思われる。

彼がいうTanztheaterには、2つの意味が含まれている。一つは舞踊様式であり、もう一つは舞踊のための舞台である。彼亡き後、Tanztheaterという新しい様式は、ピナ・バウシュによって今世紀に引き継がれた。

4. おわりに

第二次世界大戦を挟み、ドイツ表現主義舞踊は作品創作により、表現の自由と理想を追い、発展してきた。その中でヨースは、当初は表現主義舞踊家としてラバーンに学びながらも、バレエとの融合を図ることによってTanztheaterという独自の様式を作り上げた。それはその当時の表現主義舞踊家からすると到底容認することのできない内容であった。しかし別の角度から見れば、「一般の人々に、彼の作品や彼の人柄などを通して、当時の人々に新しいクラシックバレエに興味付けをした」¹⁸⁾と称されている。このことも彼の功績として挙げることができる。

Tanztheaterの創始者として、彼の作り上げてきた理念は、21世紀のピナ・バウシュのWuppertal Tanztheaterに引き継がれていた。ピナ・バウシュ亡き後、彼らの理想を引き継ぎ、次世代へと繋がる新しい舞踊の登場を望みたい。

引用文献

- 1) 鈴木万里子;近代舞踊革命ードイツ表現主義舞踊の成立ー,48頁,大阪信愛女学院短期大学紀要第25集,(1991)
- 2) J.Schmidt : TANZGESCHICHTE DES 20. JAHRHUNDERTS IN EINEM BAND, Henschel Verlag, (2002)
- 3) ebd. s72
- 4) ebd. s79
- 5) 片岡康子編集;20世紀の舞踊の作家と作品, 78頁,遊戯社, (1999)
- 6) ebd.2),s80
- 7) H.Müller /P.Stöckemann ; jeder Mensch ist ein Tänzer,s76-82, Anabas Verlag, (1993)
- 8) ebd.7),s72
- 9) ebd.2),s80
- 10) 同上書5), 79頁
- 11) ebd.2),s81
- 12) ebd. 2), s81
- 13) 同上書5),79頁
- 14) ebd. 2), s81
- 15) ダンスマガジン編;ダンスハンドブック, 145頁,新書館, (1991)
- 16) 邦正美;舞踊の歴史,122頁,岩波新書,(1976)
- 17) 市川雅;ダンスの20世紀,220頁,新書館 (1995)
- 18) ebd. 2), s82

(受理 平成22年4月21日)